

Book Review

評者：安酸史子 日本赤十字北海道看護大学学長・教授

わかりやすい省察的实践 実践・学び・研究をつなぐために

著：三輪 建二／発行：医学書院

定価：2970円（本体2700円＋税10％）



省察的实践を可視化し、研究につなげるための必読書

看護職は対人関係専門職である。著者の三輪建二氏は、教育に関心をもつ多くの看護師が手に取ってきたであろうドナルド・A・ショーンの『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』（鳳書房、2007）の監訳者であるとともに、看護師の大学院生を指導してきた実績があり、本書のなかには多くの看護師や看護教師の事例が登場してくる。

私は看護師経験よりも看護教師経験が長いが、看護教師としての省察的实践をどのように看護研究につなげるかについては困難さを感じてきた。本書は、タイトルにあるようにわかりやすくていねいに「省察的实践」と「省察的实践を研究にすること」について解説されていて、省察的实践を研究につなげることに困難を感じている研究者にとっては待望の書である。大学院の学修で直面する「厳密性」と、自分がかかわる実践に即した「適切性」をめぐる対立と葛藤については、看護学の大学院教育をしている立場では、極めて日常的な葛藤である。本書の第1部では、省察的实践者であり、成人学習者である対人関係専門職のありようについて理論的にかつわかりやすく解説をしてくれる。実践と学術との橋渡しには高い「壁」があるとしたうえで、第2部では省察的实践者として実践・臨床の視点に立った省察的な記録・レポート・論文をまとめることについて詳細に検討している。そして第3部では、

実践と研究をつなぐ指導について具体例を引用しながら解説してある。

私は看護教育学を専門としていて、省察的实践を研究につなげたいと願いながら、周りから求められる「厳密性」の壁を乗り越える方策をなかなか見いだせずにいた。ショーンの「行為のなかの省察」「省察的实践家」の概念についての解釈を深めても、そのことを研究につなげることは難しいと感じてきた。手に入れた教育方法や理論のあてはめの「方法のパッチワーク」や「方法の目的化」では、目の前の学生との教育実践における事実が見えない。「方法のパッチワーク」や「方法の目的化」の繰り返しでは、一番大切な省察的实践の中身がそぎ落とされてしまう危険性がある。実践のなかに理論があるというTheory in practiceというショーンの提唱を研究につなげたいと思いながらも、「厳密性」を求める主流のなかでは、「方法のパッチワーク」や「方法の目的化」は研究者が陥りやすい穴である。

看護や教育における熟練の実践の技は、複雑な状況のなかで瞬時に省察し判断して紡ぎだしていく極めて高度な「技」である。ショーンが省察的实践を泥沼のなかでの実践であると説明しているが、泥沼のなかでの省察と判断を可視化していくことは困難である。しかし、その困難な研究の行程を歩んでいく意義は極め

て高い。

最後に三輪氏は「実践が学びであり、実践が研究である。学びが研究であり、学びが実践である。そして研究が実践であり、研究が学びである。このつながりが自然に意識され、納得して体得していくこと、対人関係専門職にとっての信念や価値観に位置付けることで、対人関係専門職が実践者であると同時に本当の意味での学習者、研究者になっていくし、そうなってほしいと心から願っている」と記している。私は看護教育学の専門家として、看護実践や看護教育実践における省察的实践を可視化していく省察的实践の研究が看護研究としてどんどん世に出てくることを願っている。本書はそうした願いを実現するための必読の書である。